

<概要>

● 内政

* 1 月 27 日の大統領就任式に先立ち、1 月中旬から連立与党内で次期国会議長の選出のための候補者調整が行われた。連立与党となった各党間の政治合意(昨年 11 月の大統領選挙時の共闘合意)に基づき、ルイス・レドンド議員(ホンジュラス救済党)が推挙されたが、最大与党リブレ党で 21 名の議員がこれに反発、野党の国民党及び自由党と組み、ホルヘ・カリックス議員(リブレ党)を支持、国会での議決に際して緊急動議が提出される等して議場は混乱、2 人の「国会議長」が選出される結果となり、大統領就任式を経た後も事態は収束しなかった。

* カストロ大統領は、就任演説の中で、①独立後 200 年以上の歴史において初の女性大統領誕生となった、②最優先の取組みとして、汚職・不正問題への対処及び対外債務等を抱える国家財政・国内経済の立直しが必要、③法の支配、人道・人権の重視とともに社会民主主義的政策を実現する、④特に教育・保健・治安・雇用に重点的に取り組む、⑤環境活動家や女性に対する殺人とその無処罰、また政治犯として不当に逮捕・収容された人々への対応等の人権侵害につき司法に公正を求めること等を強調した。

● 外交

* 1 月 27 日のカストロ大統領就任式に、我が国から宇都隆史参議院議員(前外務副大臣、日・ホンジュラス友好議連事務局長)が我が国特派大使として出席。同特派大使は、滞在中、カストロ新大統領、ナスラ新副大統領、レイナ新外相等との会談も行った。また、今次就任式には、フェリペ6世スペイン国王、ハリス米副大統領(パワーUSAID 長官、フェルナンデス国務次官(経済担当)、ニコルズ国務省西半球局国務次官補等が同行)、頼台湾副総統なども出席した。

* 1 月 29 日、ベネズエラ政府(マドゥーロ大統領)から任命されたゴドイ・ベネズエラ新大使が、信任状の写しをレイナ当国外相に提出。当国政府は、マドゥーロ政権との外交関係を再開した。

● 経済

* カストロ新政権の今後の取組みに関し、国内有識者から、新政権の経済分野の政策的課題として、①膨大な対外債務問題の解決、②雇用を創出する分野における経済回復の必要性等が挙げられた。

* 太平洋と大西洋を結ぶ全長約 330 km の幹線道路「ドライ・キャナル(ロジスティックス回廊)」の整備事業のうち、南部区間(コマヤグア県ビジャ・サン・アントニオ市とバジェ県ゴアスコラン市を結ぶ 95.87 km)の完工式が執り行われた。

● 新型コロナウイルス

* 1 月 14 日、当国保健省は、パナマの研究所の協力を得た(12 月上旬に送付済みの 75 検体の)検査結果として、当国内で初めてオミクロン変異株が確認されたことを発表した。

<本文>

1 内政

(1) 国会議長選出の混乱

昨年 11 月末に実施された総選挙を受け、1 月 21 日及び 23 日、次期国会議長選出のための予備国会が開かれたが、連立与党の中核を担うこととなるリブレ党の国会議員(全 50 人)のうち、21 人が造反する等し、党内で分裂した結果、23 日「2 人の国会議長」が選出される事態となった。

ア 1 月 21 日、予備国会での暫定役員会選出において、リブレ党内で 21 名の議員が、連立のパートナーとなる(保有議席が 10 にしか満たない)救済党が議長ポストを得ることに反対を表明。これは、大統領選挙時の政治合意(次期国会議長ポストを救済党のために確保するとの約束)は党執行部の独断で決められたものであるとの立場からであった。与党造反組 21 人を中心としたグループが、リブレ党のカリックス議員を暫定議長として立て、国民党(44 議席)と結託しつつ緊急動議を提出する等した結果、議場では明確な投票に付されることなく、怒号と小競り合いが続く混乱の中で、同議員を暫定国会議長とする暫定役員会が選出された(全 128 議席のうち 85 人が支持)。21 日夜、セラーヤ元大統領は、造反議員に対して翻意するようコミュニケを発表。これに 3 人が応じた。翌 22 日にリブレ党は 18 人の除名を発表した。

イ 翌 22 日(土)夜、23 日の予備国会での役員会の正式選出・承認、すなわち、国会議長の正式選出を前にして、国会周辺ではリブレ党主流派(執行部)や救済党の支持者らによる夜通しの抗議集会が行われた。23 日、カリックス議員を支持した与党造反組を中心とする議員グループが登院しないまま、予備国会開会時間を大幅に超えた頃、カリックス暫定議長(同じく国会議事堂には未着)は、突然、郊外の民間保養施設での予備国会開催を通知・強行し、「正式承認」の手続きをとった(出席議員: 79 人。賛成票: 79)。

ウ 一方で、リブレ党主流派を支持する同党議員及び救済党他の議員グループは、23 日、当該政治合意を実現すべく、当初予定されていた国会議事堂での予備国会を決行し、緊急動議の提出により、救済党のレドンド議員を議長とする役員会を選出・承認した。なお、国会議事堂に参集した議員は全議員 128 人中 49 人(リブレ党 32 人、救済党 10 人、自由党 6 人、キリスト教民主党 1 人)のみであったが、全ての議員はそれぞれ「代理議員」を有しており、今回、造反する等した議員の代理議員の中には、主流派を支持する者もいたため、同主流派は、これらの代理議員が国会議事堂での予備国会に代わりに出席することで過半の賛成が得られたとの立場をとった(出席数: 90 人以上。賛成票: 90 以上)。

エ このようにして「2 人の国会議長」が選出されるという異例の事態の中、1 月 27 日には大統領就任式が開催されたが、造反組を中心とした議員グループの多くは式典出席を断念。その後も、リブレ党内では事態収束に向け、セラーヤ元大統領(リブレ党コーディネーター)を中心に関係者間のやりとりが行われた。

(3) 大統領就任式

ア 1 月 27 日、首都テグシガルパの国立競技場でカストロ大統領の就任式が開催された。同就任式には、我が国から宇都隆史特派大使が特別招待客として出席した他、フェリペ 6 世スペイン国王、ア

ルバラード・コスタリカ大統領、カマラ・ハリス米副大統領、頼清徳台湾副総統、フェルナンデス亜副大統領等の各国・地域要人が来訪し、出席した。（詳細は以下2(1)を参照）

イ カストロ大統領の就任演説

カストロ大統領は、就任演説の中で、①独立後 200 年以上の歴史において女性が初めて大統領になった、②最優先事項として前政権時代に蔓延った汚職・不正の問題への対処及び深刻な対外債務等を抱える国家財政・国内経済の立直しが必要である、③憲法の遵守、法の支配、人道・人権を重視し、社会民主主義的政策を実現する、④その中でも教育、保健、治安、雇用に特に重点的に取り組む、⑤環境活動家や女性に対する殺人とその無処罰、また政治犯として不当に逮捕され収容された人々への対応など数々の人権侵害につき司法に公正を求めること等を強調した。

2 外交

(1) 宇都隆史特派大使のホンジュラス大統領就任式出席

1月 25 日から 28 日にかけて、宇都隆史参議院議員（前外務副大臣、日・ホンジュラス友好議員連盟事務局長）はホンジュラスを訪問し、カストロ大統領就任式に我が国特派大使として出席した他、カストロ大統領、ナスララ副大統領、レイナ外務大臣等と会談を行った。宇都特派大使は、27 日、大統領宮殿で行われたカストロ大統領との会談で、新政権下でも引き続き日・ホンジュラス関係が進展することへの期待を示しつつ、岸田総理大臣からの祝意を伝達する親書を手交した。

(2) フェリペ6世スペイン国王との会談

26 日、フェリペ6世スペイン国王が 27 日のカストロ大統領就任式出席のため当国を訪問。26 日午後、カストロ大統領と会談した。その中で、スペイン、ホンジュラスの関係強化を確認した。その後、カストロ大統領は自身のツイッターで「国王にお会いし、両国間の協力と関係強化について話し合うことができて光栄である」と発信した。

(3) カマラ・ハリス米副大統領の当国訪問

1月 27 日、ハリス米副大統領は、当国を訪問し、カストロ大統領就任式に出席した。同訪問にはパワーUSAID長官、フェルナンデス国務次官（経済担当）、ニコルズ国務省西半球局国務次官補等が随行。米副大統領は、カストロ大統領との会談の中で、同大統領へ就任の祝意を伝えると共に、同大統領が汚職・無処罰問題に対処に高い優先度を置き、国連との連携による専門機関創設に言及したことを高く評価し、米としての支援の意向を表明した。また、米副大統領は、ワクチンなどコロナ対策や移民問題への取組みに対する更なる支援も約束した。

(4) 頼清徳台湾副総統の当国訪問

同じく、27 日のカストロ大統領就任式出席のため、頼副総統が当国を訪問。同副総統は、当国滞在中、カストロ大統領と会談を行った。その中で、カストロ大統領は、新政府の開発アジェンダへの支援に対する台湾の意欲について感謝した。頼副総統からは総額約 100 万ドルに上るコロナ対策のための外科用マスク、N-95 マスク、小児用マスク、医療用防護服などの医療資材の供与が表明された。カスト

ロ大統領は会談後、「大統領府で頼清徳台湾副総統と会談を行った。頼副総統からは、コロナ対策のマスクなど医療資材の無償供与があった。台湾の連帯と我々の開発アジェンダへの支援に感謝する」と自身のツイッターを通じて発信した。

(5) ベネズエラ(マドゥーロ政権)との外交関係の再開

1月28日、カストロ新大統領就任式出席のため当国を訪問したプラセンシア・ベネズエラ外相は、当国政府関係者と会談を行い、両国間の外交関係の再開を確認。翌29日、マドゥーロ大統領から任命されたゴドイ・ベネズエラ新大使が、信任状の写しをレイナ当国外相に提出した。2019年以降、当国政府は、エルナンデス政権の下、マドゥーロ・ベネズエラ大統領の正統性を認めず、グアイド暫定大統領を支持し、同暫定大統領により任命された大使を接受していたが、今回、マドゥーロ政権との間で外交関係が再開することとなった。

(6) カストロ大統領の外交戦略に関する報道(ニカラグア大統領就任式関連)

1月14日付当地主要紙ラ・プレンサは、カストロ次期大統領(注:27日の就任前の時点)が、1月10日のオルテガ・ニカラグア大統領の就任式に出席せず、SNS等を通じた祝福のメッセージも出さなかったことに言及しつつ、カストロは米国を念頭に置いた外交戦略の一環として、同就任式に関わらないことで、独裁的で権威主義的なマドゥーロ・ベネズエラ大統領やキューバ、ロシア、イラン、中国等の高官達とも距離を保ったとの当地有識者の見方を紹介した。なお、ニカラグア大統領就任式には当国からエルナンデス大統領(当時)が出席した。

3 経済

(1) 有識者によるカストロ新政権の課題等

1月11日、ホンジュラス国立自治大学(UNAH) フリオ・ラウダレス副学長、ヘンリー・ロドリゲス経済学部長らがTV番組でカストロ新政権が取り組むべき国内経済の課題について、主な点として以下のとおり論評した。

ア ホンジュラスは第2次世界大戦後から80年代に入るまで、年平均4～5%の経済成長を達成していたが、80年代の民主化以降、同成長率は年平均約3%に鈍化。人口増加率を加味すると、実質的に経済はほとんど成長していない。

イ エルナンデス国民党政権が増大させた対外債務は巨大な時限爆弾となっている。「エ」政府は17億レンピーラ(約7,000万米ドル)を社会開発に投資したと言っているが、その原資は債務であり、返済のためには利子加わって20億レンピーラ(約8,300万米ドル)となり、次期政権はこれを返済しなければならない。

ウ 国内経済は賃金上昇がない状態での物価上昇、それどころか高い失業率が続いていること等を見ても、まだ回復には程遠い状況と言える。パンデミックやハリケーンだけではなく、政権交代時の内政不安定の懸念から昨年来、民間セクターにおいては新規投資が止まっている状態が続いている。残念ながらワクチン接種も経済回復に役割を果たせていない。

(2) ドライ・キャナル南部区間の開通式実施

19 日、太平洋と大西洋を結ぶ全長約 330 kmの幹線道路「ドライ・キャナル(ロジスティックス回廊)」整備事業のうち、南部区間(コマヤグア県ビジャ・サン・アントニオ市とバジェ県ゴアスコラン市を結ぶ 95.87 km)の完工式が、エルナンデス大統領と中米経済統合銀行(BCIE)代表団の出席の下、執り行われた。この区間の工事は開始から約 20 年を要し、総工費としては BCIE の融資による2億 6,440 万ドルを要した。出席したエルナンデス大統領は、本事業は歴史に残るプロジェクトとなった、このインフラによってプエルト・コルテス港とアマパラ港が繋がればドライ・キャナルはパナマ運河の代替になるであろうと述べた。

4 新型コロナウイルス

(1) 当地におけるオミクロン変異株確認

12 月上旬、当地政府は、国内におけるオミクロン変異株流行の有無を確認するため、パナマのガルゴス研究所に、75 個の新型コロナウイルス感染の検体を送っていたが、1 月 14 日、同研究所から結果が通知され、75 個の検体うち 2 個がオミクロン変異株だったことが確認された。

(2) ファイザー社製小児用新型コロナウイルスワクチン接種の開始

25 日、保健省は、5 歳から 11 歳の年齢層に対するファイザー社製小児用新型コロナ・ワクチン接種開始を発表した。政府は、ファイザー社との間で小児用新型コロナ・ワクチン 300 万回分の購入を契約しており、同日、第一便として 108,000 回分を受領した。このワクチンは、5 歳から 11 歳までの 130 万人を接種対象としており、26 日から 11 歳児を優先グループとして接種が始まり、今後のワクチン受領状況に応じて、対象年齢を下げて行くとされている。

(3) 当国における新型コロナ感染状況

1 月の感染状況は以下のとおり。ただし、国立ウイルス研究所職員が雇用継続を求めてストライキ中で、現在 PCR 検査が中止されているため、データは集計可能な26日までのもの。

- (ア) 新規感染数: 11,942 人
- (イ) 累計感染者数: 391,874 人
- (ウ) 新規死者数: 63 人
- (エ) 累計死者数: 10,504 人

< 主要経済指標 >

◇主要経済指標	2022 年	2021 年			2020 年
	1 月	12 月	11 月	10 月	
インフレ率 (前年同月比)	1.22%	5.32%	4.95%	4.65%	4.01%
貿易収支(百万ドル)	—	—	—	—	△2,557.9
輸出(百万ドル)	—	—	—	—	7,683.4
輸入(百万ドル)	—	—	—	—	10,241.3
外貨準備高 (百万ドル)	8810.3	8877.6	8836.6	8823.3	8,148.8
外国からの送金 (百万ドル)	—	—	—	—	5,573.1

為替レート（対ドル月平均）	24.48	24.41	24.28	24.26	24.75
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

＜出典：ホンジュラス中央銀行＞ ※貿易収支、輸出入、外国送金は、四半期毎に発表

（了）